

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4677700173
法人名	有限会社 三木
事業所名	グループホーム おおきな木
訪問調査日	平成19年10月24日
評価確定日	平成19年11月21日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4677700173
法人名	有限会社 三木
事業所名	グループホーム おおきな木
所在地	肝属郡南大隅町根占川南3611番地 (電話) 0994-24-2001

評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成19年10月24日

## 【情報提供票より】(19年10月12日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 5月 31日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算 8.2人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨木造 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

### (4) 利用者の概要(10月12日現在)

利用者人数	8名	男性	0名	女性	8名
要介護1	6名	要介護2	0名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.8歳	最低	79歳	最高	95歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	阿久根医院
---------	-------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周辺環境は、山々に囲まれ、田や畑があり自然豊かである一方、社会福祉協議会や老人福祉センター、商店街等も近く、住みやすい場所に位置する。敷地内には、ホームの名称でもある大きな木があり、その木の下にあるベンチが入居者はもちろん、地域住民にとっても憩いのスペースとなっている。代表者が地元出身で、入居者もほとんどが地元の方ということもあり、地域住民と昔からの顔馴染みも多く、近隣の方も気兼ねすることなく訪れることができる関係・環境が整っている。また、ホームの状況や課題について、ご家族や関係機関および地域に向けて積極的に意見交換の場をつくり、そこで出された提案について、その後どうなったのかを後日しっかりフィードバックしている。入居者の表情も穏やかで、静かにそれぞれの時間を大切に過ごされている様子がうかがえる。同業者との相互交流も始まっており、今後さらなる質の向上に期待したい。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	入居者が活動意欲を触発されるような馴染みの物品が無かったことについて、本人の意向を取り入れて部屋を飾ったり、やってみたいと望まれる家事作業に必要な物品を準備するなど、入居者の興味を持てる物品や馴染みのものの検討および提供に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で役割分担して自己評価を行い、職員会議にて日頃のサービス実施状況を振り返りながら取りまとめ、改善に向けて取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームの活動実績や課題について、出席者それぞれの立場から様々な意見を交わしてサービス向上に活かされている。また、地域の代表者から近隣の催し物への参加提案や、行政担当者からの支援困難者受け入れの提案等、出席者からの提案も討議されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日常的に入居者の状況を話し合う中から意見を聞き取ったり、家族アンケート、家族会、運営推進会議等、様々な方法で収集する機会を作っている。寄せられた意見に対しては、その内容と共に改善の取り組み状況をフィードバックしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地元出身の入居者が多く馴染みの関係にあり、老人クラブや催し物にも積極的に参加して交流が行われている。地域の商店や派出所等による見守りネットワークもあり、地域から支えられる存在となっている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスを意識して、これまでの理念について職員全員で見直しを行っており、入居者が住み慣れた地域で暮らし続けられることを念頭に置いている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送りの際には理念の唱和がされ、実践に向けた具体的な話し合いが行われており、ケアの現場においても職員同士互いに声を掛け合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	社協たよりの行事予定表や地域の方々からの誘いを受けような形で、催し物や地域活動へも積極的に参加して、地元の方々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で役割分担して自己評価を行い、職員会議にて日頃のサービス実施状況を振り返りながら取りまとめを行っている。個人が改善への意識を持ち、自発的な動きがみられる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、入居者ご家族・行政担当者・地域代表者等の出席があり、ホームの活動実績や現状の課題に対して様々な角度から討議されており、サービス向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者とは、支援困難者の受け入れ相談やグループホーム増床に関する提案等、日頃より連絡・連携に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの暮らしぶりや健康状態については、面会の際やホームだより、家族会を通じて、具体的エピソードを用いて伝えられている。	○	それぞれのご家族毎に、近況や金銭出納報告書を郵送する取り組みを始めている。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から意見を聞く姿勢を持ち、家族アンケートや家族会、運営推進会議等、広く受け入れる体制を取っている。また、寄せられた意見に対しては、その内容と共に改善の取り組み状況をフィードバックしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等による影響を最小限に抑えるために、職員との個別面談を実施したり、新規採用者をボランティアから登用する等、馴染みの関係を維持できるように工夫している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の情報を収集し、全職員が受講できる体制が取られ、資料や報告書を活用して、未受講者とも共有できるように取り組んでいる。	○	職員の経験年数や習熟度を考慮した、職員育成計画の作成が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームと、職員のみならず入居者も含めた交流をすることで、互いのサービスを理解し、新たな取り組みへと活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に自宅訪問して様々な情報を得た上で、ホーム見学や体験入居を経た後に入居に至っている。場の雰囲気馴染めるように、職員も声掛けや他の入居者との間を取り持つような支援が行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者のこれまでの経験や楽しみ、こだわり等、学ぶ姿勢で聞きながら、喜怒哀楽を共有し支えあいながら生活を共にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者のこれまでの生活歴や希望・意向を収集したり、日常生活の中で発した言葉や行動を、「つぶやき語録」に記録して職員間で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者やそのご家族の情報や意向を踏まえた介護計画の原案をもとに、サービス担当者会議にて関係職員とも話し合いながら介護計画を作成している。	○	地域の中で暮らし続けていく上で、本人らしさが表出できることを支援するような介護計画の立案が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者一人ひとりに担当職員が決められており、入居者の変化や気づきについて、計画作成担当者と介護計画の見直しについて話し合われている。	○	変更が必要な場面において、さらにタイムリーな介護計画の見直しが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への通院支援や、ホームの機能では補えない部分についてはボランティアからの支援を利用する等、入居者の生活を支える柔軟な対応を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の在宅時からのかかりつけ医を継続することを重視し、適切な医療が受けられるように、通院支援や医療機関との連携に取り組んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者・ご家族の意向を確認して方針の共有がされ、重度化した場合においても、できる限りホームでの生活が継続できるような体制がとられている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライバシーを損ねることのないように、日常のケアにおける声掛けや対応に気を配り、個人情報の取扱いについても十分に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの特別な決まり事はつくらず、入居者それぞれのペースを大切にして、その日の気分や体調に合わせて、役割や出番があるように支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員が、食事の準備から後片付けまで一緒に行っており、生活の楽しみの一つとなるように、それぞれの好みや旬の食材を取り入れたメニューを工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望や体調に合わせて入浴できるように、毎日入れる体制になっており、個浴や複数での入浴等、好みや羞恥心への配慮も行われている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のこれまでの生活や経験を聞き取り、ホームの中でその力を活かせるような場面をつくり、喜びや充実感を得られるよう取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域の催し物や遠方へのドライブへ出かけたり、入居者によっては、買い物や美容院へ出かけられるよう支援している。	○	入居者それぞれに合ったタイミングで、日常的に外出できるような取り組みに期待したい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアを実践しており、入居者に不安な様子があれば寄り添って行動を共にしている。地域住民にも協力の依頼をしており、近隣の派出所へは、入居者の状態を報告し、時折訪問してもらっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立合いのもと訓練を毎年実施しており、自主訓練や避難場所の確認、緊急連絡体制の整備、設備面におけるメンテナンスも随時行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量および排泄状態について記録されており、体調不良時にも適切に摂取できるように、食事内容や形態の変更を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	吹き抜けのある広々としたリビングにソファやテーブルを配し、畳コーナーも隣接しており、思い思いに居心地よく過ごせる空間づくりがなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者それぞれに鉢植えや思い出の写真を飾り、好みの配置で居心地よく過ごせるような居室空間づくりがなされている。		